随筆

公害漫語

香坂要三郎*

今から5～6年前，いわゆる大学紛争はなやかなりし頃の話であるが，ある宴会の席上，司会の某教授が私にテーブルスピーチを指名した際，私のことを「近頃の大学紛争に対して最も強硬な機動隊導入論者で，現職の大学の先生方を困らせた一人」と紹介した．それに対し私はこんな風に答えたことを記憶している．

「これについては大いに反論すべき余地はあるが，それは後日に譲ることとし，少くも今日の大学紛争拡大に対しては一部の大学の先生方のカッコよい言動，態度に大きな責任がある．こういうことは大いに慎しんで貰い度いものである」と．

大学紛争の方はその後幸にして下火になったけれども，カッコよい方は，ひとり上記の一部の大学の先生にとどまらず，社会のあらゆる職域，あらゆる階層に流行するというかマンエンするというか，果しなくひろがりつつあるのが偽らざる世の姿と思われてならない．

政界，財界，業界，マスコミ，今日話題にのぼるようなものは，いかに世の為，人の為になるかということよりも，いかにカッコよいかどうかに中心があるように受けとれるものばかりである．このカッコよさにはいろいろの理由や動機もあろうが，論じつめると悪質のエゴ以外の何物でもないように私は思う．

政界その他における売名をある程度必要とする（？）ような領域のことはしばらくおくとして，最も公正をモットーとすべき学界においてかかるカッコよさがますますはびこりつつあることは歎かわしい限りである．特に私は近年やかましい公害の面等においてその顕著な実例を多く見聞させられる．

今迄世間で気がつかずに過していた食品や調度品等に「これだけの有害物質が含まれている」ということを探し出すような研究――というよりも，かんぐればそういう物質が多く含まれていることを期待するような研究が競って進められ，それが期待通りになったら，鬼の首でもとったように発表しようとする意欲がチラつくような気さえするのである．

勿論このような研究も必要であり，しかもそれがわれわれ人間の健康や生命に大きな影響を及ぼすものであればなおさらのことである．しかしそれにも限度があり，そのもののディメリットだけを強調しメリットの方を黙殺し，結局バランスにおいてマイナスになるような愚を招かぬだけの慎重さが必要である．これが近頃やかましく言われるT・Aの精神にもつながるわけであると思う．

しかし神ならぬ――神からは程遠い人間の知恵ではこの見さかいは非常に難かしいことであって，非常に立派で人類の幸福につながることをしたつもりが，結果において人類の不幸をもたらすことにならないとは限らない――否そういった例は数限りもないのである．

人間の――特に科学技術の面での最高の地位にあると思われるような学者―例えばノーベル賞受賞者のような学者でもそんな過誤をした――少くともそう解釈されることも少くない．例えばDDTはノーベル学者ミュラーによってその殺虫性が研究されその面で非常な効果を示し，戦後の農産や衛生上に貢献したことは測り知れぬものがあったが，近年その公害面が強調され遂に製造禁止になったことは周知のことである．即ちこれはそのディメリットがメリットを上廻るとの判断によるのであるが，その判断の正否はともかくとして私はもしこの薬剤が敗戦直後の混乱時に米軍によって日本に持ち込まれなかったらどうだったかを考えると肌に粟せ

* 香坂要三郎（Yozaburo KOSAKA），大阪大学名誉教授，工博

ざるを得ない．私はこの意味でそのディメリットだけを責めてメリットを高く評価しないのは大きな誤りであり，ミュラーの功績は依然として輝いていると思う．

またこれとは稍異なるが，ワックスマンによって発明された結核特効薬ストマイが日本に始めて輸入されたのは昭和23年頃であったと思うが，当時あたかも私自身結核で苦しんでいる時であって，これを試用してその卓効に目をみはらされたものであり，これによって結核は不治の病から不死の病に変り，その死亡率においても従来の首位の座を遙かに降るに至り，私自身も50才で果つべき寿命を80才に手の届く今日迄，のばし得るに至っている．そのストマイも最近その効力が低下し（菌の抗性の増強）またその副作用等のディメリットが云々されるに至っているけれども，そのメリットは，そしてワックスマンの功績は人類の歴史から消し去るべからざる輝やきを放つものである．

このような例は他にもいくらでも挙げることが出来ると思うが，要するに人間のやることや造るものは，そのメリットとともに必らずディメリットを伴なうものであり，われらの福利はその差の大小にかかるものであることを常に念頭におくべきではなかろうかと思う．

ちょっと話がそれたので元のカッコよさに戻すが，最近公害面で大きな話題となったものに学校給食用のリジンがある．いろいろ物議をかもしたあげく文部省はこのものの無害説をとってその使用を各自治体の自由意志に任せるということにしたが，実際問題として科学知識に乏しい日本の母親達の有害論盲信の圧力が強く，これを実用している学校は極めて少いかに聞いている．

私は専門外のことでリジンの有毒説を自ら否定するだけの知識は持ち合わせないが専門家達の話では上記合成リジンに含まれるいわゆる発癌物質ベンツピレンの量は焼き肴やある種の野菜（例えばレタス）等に含まれる量の数分の一に過ぎないとのことである．学校給食そのものの功罪は別として，一学者のカッコよい発表がこのような恐ろしい波紋をまき起こすことを考えると誠に空おそろしく思われる．しかもこれはほんの一例にすぎず，近頃カッコよい先生方のこの種の発言発表は枚挙にいとまない程であるように思うのは私のひが目だろうか．

人類の危機があらゆる面から叫ばれており，公害の深刻化もその重要な一因であることは何人も否定できないところであり，従ってこれを回避する道としてはこれの発生を少くし，発生したものはこれを除去しあるいは低減することにあるは言うまでもなく，これに対し科学技術は直接間接に重大なる責を負うべき立場にある．従ってこれに対してわれわれはあらゆる努力を惜しんではならないが，しかしいかに科学技術が発達し，あるいはT・Aの手法がうまくとり入れられたとしても，これから加速的に増大すべき公害を完全に抑止し，あるいは根絶することは神ならぬ人間には不可能といわぬまでも至難の業であろう．少くもそれは技術的には可能であっても経済的にあるいはエネルギー的に不可能であろう．

故に今後公害なるものは人間にとってある程度その宿命と考えなければならぬ，言うならば人類の文化は公害という悪縁を伴なって歩かなければならない運命にあると考える．少くも今日の時点では公害は人間がその生活の潤沢さや便利さ等の欲求に対する代償と考えなければならないのではなかろうか．

故にもし人間が公害を嫌い，これからまぬかれようとするならばそれだけの犠牲を払わなければならない．公害の多い都市生活をあきらめて，環境のよい田舎に引込んで無公害の楽しさを味わうべきであろう．

私は最近ある卒業生達の招待で，岩国，宮島方面を回遊する機会に恵まれたが，あの辺は山川ともに清く美しく，特に錦帯橋のかかる錦川の水の清冽さに目を見はり，工業地帯に近くしかも近頃汚なくなったといわれる瀬戸内海もあの辺では意外に海の水もきれいなのに驚いた程である．

私は公害を敢えて是認するわけではないけれども便利さや潤沢さの追求にのみ急で，それの副産物たる公害を極度に毛嫌いするのはあまりにも身勝手すぎると思えてならないのである．

自動車の排気ガスによるスモッグにはやかま

しいくせに自分は必要以上に車を乗り廻すかと思うと，一方ではそれにつけ入って排気ガスの規正の緩やかな間に車を増産する企業もあると伝えられる．電力は安く豊富に供給しろ，しかし自分の家の近くへの発電所建設は絶対に反対であるというのが近頃の大衆の言い分であり，すべてが身勝手とエゴの所産であり，この悪風を改善しない限り解決の道は永久にひらけないであろう．

私は更に公害対策の一環としてこの際公害に対する生理的抵抗力の鍛練ということを提案したい．

私は医者でもないので，人間の公害に対する生理的抵抗というものが鍛練によってどの程度増進出来るものかについて何等の資料も持たないし，この種の実験をした，あるいはしつつある専門家があるかどうかも知らない．しかし私のささやかな自己の経験からそれは可能であると思えてならないのである．

私事になって恐縮だが，さきにも触れたように私は昭和21年重い結核を病み，以来10年（正確には12～13年）の闘病生活を送って，昭和33年頃ようやく起き上ることができたが，たまたま開設されたある工業専門学校の校長に推挙された．その時推挙者のA氏が「任地は海岸で空気もよく気候もよい，しかも校長は雑用も少いから病後の保養にもよく，君には理想的な職場と思う」とのことであった．私もいろいろ考え家族とも相談してそれを引き受けることに決心した．ところが私の闘病中の治療を一手に引きうけて私を再起せしめるまでに努力してくれた主治医Tがこれに対して大反対をとなえた．いわく「あなた（香坂）は大阪のスモッグの中で発病しそのスモッグの中で全治した．これはいわば大阪のスモッグに免疫になったということである．これからの任地は海辺で空気がきれいかも知れないが，それが必ずしもあなたの肺臓によい影響をもたらすとは限らない，否むしろ反対であって逆の作用をする公算が大きい．それは田舎の清い空気の中で育ったものがスモッグの大阪に来て発病し悪化するのとちょうど裏返しの現象である」というのである．

それで私はその忠告に従ってその赴任を断ることにしたが，その結果（？）大阪のスモッグの中でこの歳（79才）まで余命を保っている．亜砒酸のような猛毒でも微量ずつ増量すれば致死量にも抵抗できるようになるという話は若い頃聞いたことがある．

また大阪市民の平均寿命が必ずしも日本全体の平均寿命よりも著しく低いことはないというような話もきいて，私は公害も鍛練によってある程度免疫性とか抵抗力とかが生まれるものと信ずるようになったのである．

公害の発生や除去に関する対策は勿論必要であり，あらゆる科学技術を駆使してこれらに努力すべきはいうまでもないけれども，一方あくまでも今日の文化の恩恵を享受せんと望み，あるいは都市生活を希求するならば，公害に対する多少の犠牲には耐えるような鍛練，努力も必要なのではなかろうか．　（昭和50. 11. 20稿）